

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	オルフルド目黒		
○保護者評価実施期間	2024年12月10日		～ 2024年12月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	2024年12月6日		～ 2024年12月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○訪問先施設評価実施期間	2025年1月7日		～ 2025年1月24日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 28
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所等訪問支援のご利用に際して、このサービスを利用することでお子さま・訪問先にどういった効果をもたらすことができるかを、保護者・訪問先両者に理解してもらうことができる。	○保護者にはインテーク面談の時に聞き取りだけでなく、サービスについて理解できるように資料を用いながらみ砕いて説明している。  ○訪問先には、事前関係者会議を行政の担当者を交えて開催していただいたり、会議が開けない場合は学校や園に伺い保育所等訪問支援について、資料と説明を通して理解を深めていただくように努めている。	引き続き行っていくが、定期的に今回のようなアンケートも利用して満足度についてチェックしていく。 フォローが必要であれば適宜面談等を行っていく。
2	専門性の高い訪問支援員によって正しくサービスを提供することで、利用児の集団参加や成長・発達を促すことができる。	毎月のミーティングや研修の紹介(参加)等により、スタッフ同士で高い専門性を共有できるように努めている。	研修制度を充実させる。 受け身ではなく、全てのスタッフが自分の支援を発信・共有できる場を設け、専門性をよりブラッシュアップしていけるようにお互いに支え励まし合う機会を多く設ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者に対して、個々人のサポートは適宜行っているが、ペアレントトレーニングや父母会など、集団の力を利用する活動に手をつけることができていない。	実際、管理者、児童発達支援管理責任者も現場で訪問支援に入る事が多く、この分野に時間をさけなかったという現状がある。	スタッフの育成と勤務体制を整備することで、ある程度役割分担を行い、今後は児発管が保護者支援にもう少し力を入れていける体制にしていく。
2	事業所の運営規定、リスクマネジメントや管理全般について、利用者・従業員への周知が足りない。	実際、管理者、児童発達支援管理責任者も現場で訪問支援に入る事が多く、この分野に時間をさけなかったという現状がある。	スタッフの育成と勤務体制を整備することで、ある程度役割分担を行い、今後は管理業務の一環として情報発信と事業所の業務体制の整備に力を入れていく。